



<報道用資料>

2023年10月
株式会社紀文食品

“未来の思い出”になる楽しいお正月を過ごそう 「家族でつくろう！お正月プロジェクト」発足！ ～WebやSNS、イベントを通じて情報発信～

株式会社紀文食品は、中長期的な正月文化の啓蒙活動として新たに「家族でつくろう！お正月プロジェクト」を発足いたします。

「家族でつくろう！お正月プロジェクト」は『お正月は大人になって振り返ると幸せな家族の思い出。家族みんなで協力しながら楽しいお正月を過ごし、“未来の思い出”をつくってほしい』という思いのもと、正月行事を家族で主体的に取り組む大切さや楽しみ方を伝えていくプロジェクトです。

本プロジェクトでは、監修に和文化研究家であり「行事育」提唱者の三浦康子氏を起用し、文化や作法、家族で楽しむメソッドなどをWebサイトやSNS、イベントなどを通じて発信してまいります。



「家族でつくろう！お正月プロジェクト」キービジュアル

[プロジェクト詳細は次ページへ](#)

<この資料に関する問い合わせ先>

株式会社紀文食品 広報室

TEL:03-6891-2751 E-mail:koho_tokyo1@kibun.co.jp

※画像データをご希望の方は広報室までご連絡ください

■プロジェクトの目的・背景

紀文食品には、日本の伝統行事、文化であるお正月とおせち料理の大切さと慣習を次世代に伝え継いでいきたいという思いがあります。この思いを大前提として改めてお正月について振り返ってみたところ、家族が集ったり、久しぶりに連絡を取り合ったり、親や親戚からお年玉をもらったりと、「お正月は幸せな家族の象徴であり、原風景である」という考えにたどり着きました。このことから、お正月行事を家族みんなで実践することを通じて、家族の絆を育むと共に、幸せな家族の思い出を作っていたいただき、ひいてはお正月行事をきちんと行う方を増やして伝統食文化であるおせち料理をより多くの方に召しあがっていただくことを目的として、本プロジェクトを発足いたします。

また、高齢化やコロナ禍を受け、ひとりでたくさんのおせち料理を用意するのが負担になる方や、夫婦共働きで年末まで忙しく、おせち料理を作る時間がないという方が増えています。さらには「ジェンダーレス」や「ダイバーシティ」といった考え方が浸透し「家事は女性がやるもの」といった性別による固定的な役割分担をなくしていこうという動きが広まり、人々の価値観や行動様式も変化してきました。おせち料理についても、母がひとりで用意する時代ではなくなってきているのではないのでしょうか。このような時代の変化や動きの中で、ぜひ家族みんなでお正月準備やおせち料理づくりに取り組み、共通の思い出を作っていたいただき機会にしていきたいと考えています。

■今後の展開について

今年度をキックオフと位置づけし、次年度以降活動内容の検証、改善をしながら、2030年までを目標に継続した展開をしていく予定です。

<プロジェクトの主な活動内容>

◎Webマガジン形式の公式特設サイトの開設

www.kazoku-oshogatsu.jp/

◎「紀文 中高生おせちアイデアコンテスト」の開催

www.kibun.co.jp/brand/osechi/contest2023/

◎12月上旬におせち料理教室PRイベントを開催

※詳細は別途11月頃にご案内予定

◎「レッドカップキャンペーン」への参加を通じた、「お正月の幸せの輪をつなぐ1円募金」の実施

www.kibun.co.jp/cms1/kibuncontent/uploads/230906_kibun_redcup_cp.pdf



プロジェクトロゴ

三浦康子氏 プロフィール



和文化研究家/「行事育」提唱者

古を紐解きながら今の暮らしを楽しむ方法をテレビ、ラジオ、新聞、雑誌、Web、講演などで提案しており、行事を子育てに活かす「行事育」提唱者としても注目されている。All About「暮らしの歳時記」、私の根っこプロジェクト「暮らし歳時記」などを立ち上げ、大学で教鞭をとるなど活動は多岐にわたる。著書『子どもに伝えたい春夏秋冬 和の行事を楽しむ絵本』(永岡書店)、監修書『季節を楽しむ366日』(朝日新聞出版)ほか多数。